



特定非営利活動法人

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2010年度 事業報告書

◆FTCJ 事務局◆

〒157-0062東京都世田谷区南烏山6-6-5安藤ビル3F

(5月9日に移転しました)

TEL&FAX:03-3835-0221

Email:info@ftcj.com URL:http://www.ftcj.com

2010年度事業報告書

2010年4月1日～2011年3月31日まで

1. 2010年度 事業を実施して

▼はじめに

(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)は、2010年度6月より新たに1名の専従スタッフを迎え、事務局の運営を専従スタッフ3名、及び、非専従(アルバイト)スタッフ4名、その他インターンやボランティアメンバーにも参加してもらいながら実施しました。今年度は、組織内部の基盤強化に力を注ぐこととし、通年参加していた日比谷公園でのグローバルフェスタや、丸幸ビル NGO まつりなどへの参加を控えました。そして、組織内部に目を向けて今まで10年間の活動を見直し、さらにより良い事業に取り組めるような仕組みづくりに力を入れました。

その一方で新しい取組みにも着手しました。それは、FTC カナダと連携し、協働で日本の子どもや若者がアクションを起こせるように育てるためのリーダーシップトレーニング事業の開発と、途上国の子ども支援事業の充実に向けた取り組みです。そのために専任スタッフを設置し、研修のためカナダとインドに2か月半派遣しました。今後は、より多くの日本の子どもや若者に、世界の現状を伝え、その課題に取り組む一歩を踏み出す力を育む活動に、多くの方とつながって取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともご協力よろしく申し上げます。

代表理事 中島早苗

▼2010年度 活動のハイライト

FTC ネットワークを活かし、新しい事業と組織強化に取り組みました。

1. FTC カナダへの専任スタッフの派遣によるリーダーシップトレーニング事業開発の実施
2. FTC インドへのスタディツアー実施とインドの子ども支援に向けた話し合い
3. FTC カナダで習得したリーダーシップトレーニングの技術と情報を用いて、日本の子どもへのエンパワーメントの実施
4. 組織内部強化の取組み(ウェブデザイン改訂、アクセスデータベースのプログラミングなど)

2010年の課題として挙げていた1～3の取組みのために、新しく専任スタッフとして天野フェイスを迎え、FTC カナダが実施しているリーダーシップトレーニングのプログラムの内容とそのワークショップのファシリテーター技術を習得するためカナダ(一部インド)に派遣することができました。帰国後は、そのプログラムを用いて実際にワークショップを行うため、学校や他組織主催のイベントに向けて延べ2000人以上の子どもや若者に対して出向き、スピーチを行うなどしました。主に関東を中心とした場のみでの実施だったので、今後は、関東以外の地方に向けて、ワークショップを実施していきたいと思っております。

また、長年の FTCJ の課題だった個人情報データベースの管理の充実と、ウェブデザインの改訂については、助成金を得たことによって実施することができました。2011年に実際に新しくなったシステムを運用していきますが、実際に使ってみてまた見直ししながら進んでいければと思います。

その一方で、取り組めなかったり、次年度へ繰越となったりした事項もありました。具体的には、

- ・認定 NPO 法人申請に向けた作業業務
- ・資金調達に向けた取組み(一部のみ実施)

上記2010年度中に実施できなかった事項については、2011年度に取り組む課題として引き継ぎ、引き続き今後も 更に体制を強化し、良質な事業を実施し団体の目的の達成のために活動を進めていく所存です。

2. 事業の実施に関する事項 事業報告

1) 子ども主体事業

担当:子ども代表委員2010 志賀アリカ(高2)、星野響子(高2)

◆事業の目的と役割 と 活動内容

- ・全国の子どもメンバーの活発な活動を目指し、情報交換や共有、意見交換の場をつくる。
- そのために①キッズパワーキャンペーン(児童労働を子どもに伝えるためのウォークやイベントの実施)
- ②キッズ・キャン! チョコレートプロジェクト「ちょこluv」

活動	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数	支出額(千円)
① キッズパワーキャンペーン	子どもが児童労働の現状を学ぶ「子ども集会」の立案、準備(資金調達・広報)、運営	6/7	東京 Amway	12人	48人	189
	人々に問題を伝えるためのウォークの立案、準備(資金調達・広報)、運営など実施	6/7	東京 渋谷・原宿	12人	52人	
④チョコプロ	インドの学校建設と国内の子どもの活動の資金を集めるため、チョコレートを販売するプログラム。パッケージのデザインや価格設定、販売を子どもメンバーが担当し実施。	10~3月	事務所、その他	7人	453人	子ども活動応援事業で報告

【活動にご協力頂いたみなさまのご紹介】 実施に対し、下記の方々にご協力頂きました。

- ーキッズパワーキャンペーン: 会場提供 Amway
- ーチョコプロ: 商品提供 東京・千鳥屋 / 商品紹介協力 シンプル家事.com

【写真で見る子ども主体事業】

キッズパワーキャンペーン 渋谷で児童労働の撲滅を訴えるウォークを実施



チョコレートプロジェクト 商品の企画から、パッキング、販売までを子どもメンバーが実施しました。



◆1年をふりかえって / 感想: 子ども代表委員 志賀アリカ

昨年は、FTCJ 子ども代表委員として外に出て行く機会が多かったように思います。様々な目的に対し活動している方々との出会いは本当に刺激がいっぱいで、一人一人が自分が今一番できることを活かしている様子を感じました。私も子どもとして、今、自分に何が出来るのかを常に考えて行きたいと思い、日々周りをよく見回せるようになったかなと思います。反省点も多々ありますが、出会いの多い実りある一年を過ごさせて頂きました。有難うございました!!

◆1年をふりかえって / 感想: 子ども代表委員 星野響子

子ども代表委員として活動してきたこの一年間は今までよりもはるかに沢山世界のことを知り、考え、行動する一年間となりました。活動していく中で一番嬉しかったのは、世界の児童労働について感心を持つ人が、一人、また一人とあちこちで増えていくことが感じられたことでした。そのような時、少しずつでも世界を変えていくことができるという素晴らしさを味わうことができ、子ども代表委員をしていて良かったと思いました。

2) 子ども活動応援事業

担当:町井望(事業リーダー)、出野恵子、天野フェイス、中島早苗、萩原由加、原口直敏

◆事業の目的と役割・活動内容

- 1) 国内の子どもが、世界の開発途上国で見られる児童労働など苛酷な状況に置かれている子どもの現状を学び、問題を解決するための支援活動の企画・実行を主体的に行えるように育成する。
- 2) 国内外の子どもの権利の擁護を求め、子ども参画を果たすための子どもによる活動のサポートを行う。そのために

—育成事業 ①夏キャン! in 東京、②カナダやインドでのリーダーシップ・トレーニング(LT)研修、
—メンバーサポート ③子ども主体事業サポート、全国のメンバーの活動サポート を実施しました。

活動	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数	支出額(千円)
①夏キャン! in 東京	3泊4日のプログラムの中で、参加者の子どもが子どもの権利や、貧困や児童労働など世界の現状を学びそれらの問題を解決するためにできることを見つけ、行動を起こすための計画(アクションプラン)を立てるようワークショップを実施。	8/2~5	東京 高尾の森 わくわくビレッジ	7人	7人 (小学生)	230
②カナダでのLT研修	FTC カナダで行われている Take Action Academy(夏にトロント、バンクーバー、モントリオール、カリフォルニアで実施されている子ども・若者向け1週間プログラム。)のファシリテーター養成講座で研修を受け、同時に担当スタッフ、スピーカーとして参加。世界の現状を時に楽しく学び、取組むためのアクションを計画する。実際にボランティア活動をする日もある。様々なスピーカーによる講演会もあり。	8/8~15	Toronto 郊外、Me To We Leadership Centre	1人	100人	1,507
	毎年カナダで学年度の最初(9月頃)に行われている Me To We Day (通称: We Day)の視察と、スタッフとして企画と運営に参加(トロント、バンクーバーのみ)。無料だが、クラス単位で、1年を通じて活動を表明しないと参加は出来ない。昨年度の参加者は約4億円の募金活動を実施。WeDayにはノーベル平和賞受賞者や政治家、スポーツ選手やミュージシャン等の様々な著名者が子どもを励ますメッセージを配信。当日はインターネットやCTV(カナダTV)で生放送が放映された。	9/30/2010, 10/15/2011	トロント (Air Canada Centre)、バンクーバー (Rogers Arena)	1人	トロントとバンクーバー 18,000人(全会場40,000人)	
③インドでのLTサポート	インドウダイプールの支援先ヘスタディーツアーの中で、カナダスタッフがリーダーシップトレーニングの通訳やフォローを実施。	8/21~29	インド(デリー、ウダイプール)	3人	9人	310
④子ども主体事業サポート	キッズパワーキャンペーンやチョコプロへのサポートを実施。上記活動を担当する子どもメンバーに、企画書の書き方、電話のかけ方、プレスリリースやチラシの作成などサポート。	通年	事務所	8人	子ども代表委員を中心に子どもメンバー	195
⑤子どもメンバー活動サポート	メンバー登録をした子ども達へイベントの情報を定期的に流し、支部メンバーへの電話やメールの送付を実施。	通年	主に事務所	5人	全国の子どもメンバー	100

【活動ご協力のご紹介】

—LT研修の実施に対し、下記の方々にご協力ご支援頂きました。

活動費助成協力:外務省主催 NGO 長期スタディ・プログラム (事務局: (特活)国際協力 NGO センター)

【写真で見る活動の様子:夏キャンプの様子】

グループワークでは活発な話合がありました。

/ 時には机に座って講義に集中！

/ インターネットを使って、世界の現状を調査。



それぞれが調べた結果や自分出来るアクションを各自で発表しシェアしました。→

【写真で見る活動の様子:LT 研修(カナダ)の様子】

参加者100人が集まったカナダでのアカデミー

ボランティアデーで通行人を元気づける

アクションを起こす子どもたち



アクションを起こすためアクティビティーを通し参加者で楽しく学びます。

水の重要性と、世界の情勢を学びながら、ろ過装置を作るアクティビティーを実施しました。↓



【写真で見る活動の様子:LT 研修(インドスタディーツアー)の様子】

世界情勢について学ぶワークショップを実施。アクションを起こすための7つのステップについて学び、自分がインドで目のあたりにした現状を日本でどうやって伝えて行くのか、そしてどういうアクションを起こすかについて考え、分かち合いました。



◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

3) 外部ネットワーク事業

担当: 伴野保志(事業リーダー)、西郷和将、中島早苗

様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、協働し FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指す事業です。

＜2010年度参加・構築したネットワーク＞

- ・ JNNE(教育協力 NGO ネットワーク): 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。
- ・ 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン: 世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA(万人のための教育)運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしています。JNNE 加盟団体などで実行委員会を構成し、実施しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 児童労働ネットワーク(GL ネット): 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 日比 NGO ネットワーク: フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。
- ・ 「国連子どもの権利委員会に個人が申し立てできる制度を作ろう！キャンペーン」へ参加し情報交換、活動を実施。
- ・ その他非営利組織への会員登録や他団体との協力

より良い事業運営のため JANIC、関西国際交流協議会などへの団体会員登録や、丸幸ビルに事務所を構える NGO と協力したイベント、NTT 労組主催イベント、関西での国際協力イベントへの参加など。

ネットワー ク名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	参加対象 者の範 囲・人数	支出額 (千円)
JNNE	教育協力 NGO との情報交換、またそれらの情報を事業担当者や会員へ提供。	通年	-	2人	会員全体	5
世界中の子 どもに教育を キャンペーン	日本の小中高校、大学351校の41,940人が参加し、それに加えて岡田外務大臣をはじめ国会議員向けの「世界一大きな授業」を4/20に行った。昨年2009年に参加した2倍以上と、大きく広がった！	4月～ 7月	中学校、事務所	4人	300人	28
	7/9(金)に志賀アリカさん、星野響子さんが子どもメンバーを代表して外務省を訪問し、4月に議員向けの授業の感想や、途上国の子どもの自立のために教育がとても重要であり鍵であることや、貧困のなかにいる子どもの状況を知ってどう感じているかなどを話した。JNNEからはNGOの提言などを伝えた。		外務大臣への 政策提言	2人	6人	
	「世界一大きな授業」で世界の現状を学んだ子どもたちは、教育支援の拡充を願い、首相宛に感想やメッセージを寄せてくれたので、日本政府に届けた。					
CL ネット	4/12～6/30にかけて「児童労働反対世界デー・キャンペーン2010」を開催。児童労働ネットワークの20会員団体及び16キャンペーン賛同団体により、期間中24イベントが開催され、約1万人の参加を得た。	4/12～ 6/30	全国	5人	400人	20
	6月12日(土)に文京学院大学仁愛ホールにて、NGO-労働組合国際協働フォーラム、ILO 駐日事務所、児童労働ネットワークの三者共催で「児童労働反対世界デー・イベント 映画上映会&シンポジウム 児童労働の今、そして未来」を開催した。総勢約60名のスタッフにより運営され、428名の参加を得た。映画上映会では、ケニアのストリートチルドレンを映したドキュメンタリー映画『チョコラ!』を上映した。	6/12	文京学院大学 仁愛ホール	60人	428人	
	大阪・御堂筋での児童労働学習会とウォークを企画、準備、運営を実施(共催:シーライツ)	6/7	大阪・御堂筋	4人	40人	

＜ネットワーク構築事業による活動一覧＞

CL ネット	6/13に集会とウォークを実施。児童労働の現状と教育の大切さをウォークを通して知ってもらうため、高校生パフォーマーなどによる講演、人々への呼びかけ、チラシ配布、署名を行った。AMWAYのホールを利用し集会開催後、渋谷や原宿をウォーク、神宮通公園で流れ解散。	6/13	AMWAY,渋谷表参道	6人	48人	34
	5/5に Just As Youth (JAY ジェイ) ～子どもらしく～高校生・大学生パフォーマーによるライブ・イベント+FTCJによる講演等を実施。	5/5	Live Cafe mono (早稲田)	2	108人	
	4/6にフィリピンの子どもの未来のために ～児童買春の現状とその取り組み～フィリピンの人権活動家カレン神父をゲストスピーカーとして招き、講演会を開いた。(グローバル・ヴィレッジと共催)	4/6	東京ウィメンズプラザ	6人	85人	
	2007年度から実施している署名活動を今年度も実施した。「児童労働をなくそう！10万人署名」を2010年4月12日～7月31日に呼びかけ、20万36筆の署名を集めた。	10月	各省庁へ訪問	5人	—	
	7/1外務省と厚生労働省の主催で「児童労働に関する意見交換会」が開催された。	7/1	外務省	5人	—	
	5/10、11にオランダ・ハーグにて開催された児童労働の国際会議「ハーグ会議」に児童労働ネットワーク代表・堀内光子氏が出席した。	5/10,11	オランダ・ハーグ	1人	—	
	10-11月に外務省、厚生労働省、文部科学省の各大臣又は副大臣へ署名を提出し、要請を行った。FTCJから子ども代表の2名志賀アリカ、星野響子と中島早苗が参加。	10,11月	各省庁へ訪問	3人	—	
日比 NGO ネットワーク	フィリピンのよりよい開発支援のための話し合いや、外務省との情報交換、日比 NGO シンポジウム後のフォローアップの実施。	通年	東京	1人	フィリピンの人々	—

国会議員に向けて、基礎教育を受けることができていない世界の子ども達の現状や教育費について伝えるため、先生役を FTCJ 子どもメンバー3人が務めてワークショップ形式で授業をしました。30人ほどの議員や関係者にご出席頂きました。

先生役の高校生メンバーの3人

呼びかけ人の坂口議員もワークショップ！

岡田外務大臣(当時)も出席頂きました。



児童労働キャンペーン・ウォークや子ども集会の様子

渋谷や原宿でウォークを中高生中心に実施

子ども集会では児童労働についてクイズや劇で説明

関西でウォークを通じて児童労働を伝えました。



教育キャンペーン・子どもメンバーによる議員会館での授業の様子

◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

目的: 国際問題や権利を奪われた子どもの現状を様々な方法で伝え、多くの人に知ってもらうことで問題解決につなげる。主に関東と関西で事業を展開しています。

4) アドボカシー事業

担当: 中島早苗、出野恵子、佐藤美紗子、西垣春奈、町井望、天野フェイス、古橋侑佳、伊藤菜々美

内容: スピーカー派遣、イベント実施、アクションキッズ(演劇を通じて児童労働問題を伝える活動)、ニュースレター発行、ホームページ構築・更新、出版、資料開発、物販など

事業名	内容	作業実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ニュースレター発行	NL 23号 特集 世界中の子どもに教育を！フィリピン訪問	8月	東京事務所	6人	各号300部印刷	100
	NL 24号 インド訪問報告特集、カナダ訪問報告	12月				
	NL 25号 Terra へ祈る報告(FTC カナダから Kim 来日等)	3月				
ホームページ更新・作成	新しい情報をデザインするなど随時対応。特に国際問題や支援活動に関する情報を充実させる。	通年	-	6人	1日平均200人程度アクセスあり。	1058
出版	出版した書籍のプロモーション・キャンペーン	通年	各イベント等	3人	1,000人	150
物販	フェアトレード商品や出版物の紹介、それに関する資料作成と仕入れ、販売など。	通年	事務所	6人	子ども、一般	824
イベント	【NTT 労組主催】 児童労働撲滅キャンペーン10 in 兵庫への参加	5/15	神戸ハーバーランド	8人	4,000人	5
	【NTT 労組主催】 児童労働撲滅キャンペーン10in 横浜へ参加	5/31	横浜駅前	1人	2,500人	4
	パルシステム東京設立40周年イベントへ参加	11/13	東京ビッグサイト	5人	10,450人	22
	【WeDay 上映会 & Dewチャリティーライブ】他アクションキッズによる児童労働劇の上映も実施。収益はインドの井戸建設のために使用しました。	11/28	カナダ大使館(東京)	16人	140人	230
	【町田国際フェスタ】スピーチや FTCJ 活動パネル展示を通じた活動紹介やフェアトレード商品販売	12/10	東京都町田市	7人	人	10
	【松原国際フェスタ】大阪府松原市内お祭りに参加し、活動紹介やフェアトレード商品の販売を実施。	11/5	松原市役所	5人	2000人	15
	【関西イベント】チャリティーフランス語講座。参加費はインドの学校建設事業に使用。	5回	大阪市内	2人	25人	5
	【児童労働ワークショップ@ソーシャルエナジーカフェ】 カードゲームを使った児童労働問題を考えるワークショップを実施	12/25	東京都世田谷区	3人	22人	5
	【It Takes a child 上映会@ソーシャルエナジーカフェ】	12/28	東京都世田谷区	3人	8人	6
	【世田谷世界博】ブースを出展し活動紹介や物販	1/29	東京都世田谷区	6人	250人	5
	【町田まちカフェ】児童労働劇の公演やフェアトレード商品の販売	1/30	東京都町田市	7人	200人	8
	【モンゴルを学ぼう！@ソーシャルエナジーカフェ】	1/30	東京都世田谷区	1人	7人	3
	【OWF(ワン・ワールド・フェスティバル)】ブース出展を通じて活動やフェアトレード商品紹介。	2/5・6	大阪国際交流センター	8人	全体の来場者合計:12500人	30
【NPOサミット2010】株式会社ソノリテとユナイテッドピープル主催の NPO コンペ形式イベントに参加し、11団体の中2位に選ばれました。	12/26	JICA 地球ひろば	2人	100人	5	

イベント	【Terra へ祈る】全日本仏教青年会主催イベント。カナダからKimをスピーカーとして招聘し、アクションキッズ講演やスピーチなどを実施。	3/3	東京・恵比寿ガーデンホール	14人	350人	55
アクションキッズ	演劇や朗読劇を通じて児童労働問題を伝える子どもや若者メンバーによるパフォーマンス活動。台本の作成を含め制作活動の実施。協力：今井田博氏、河上香子氏	通年	関東・関西	10人	5,000人	43

	内容	作業実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
世界の貧困や子どもの権利、それに対する団体活動紹介のため出張講演や事務所での訪問対応。	学校訪問や事務所対応：小学校～高校1校、中学校2校、高校7校、大学5校、その他団体6回、合計25回 ＊スピーカー派遣、事務所訪問対応先： JICA大阪国際教育セミナー、能勢高校、立命館宇治高校、千代田高校、ロータリークラブ、松原高校、茗溪高校、横浜雙葉高校、都立国際高校、聖光学院高校、大和西高校、テンプル大学、恵泉女学園大学、津田塾大学、ルーテル大学、KInternational School、町田市立真光寺中学校、名古屋市立宝神中学校、全日本仏教青年会、ソーシャルエナジーカフェ、など	通年	東京、神奈川、名古屋、大阪、京都、兵庫、千葉、大分	15人	関東、関西、中部の学校や団体、一般向け施設などにて約3400人	87

◆スピーカー派遣 及び事務所訪問対応

【写真で見る活動の様子】

学校で行ったスピーカー派遣の様子(世界の問題を学ぶためのワークショップを実施しました。担当：天野フェイス)



5) 海外自立支援事業

担当: 中島早苗(事業リーダー)、鈴木悠仁子、出野恵子、伴野保志

◆事業の目的と役割・活動内容

目的: 貧困などが原因で権利を奪われ困っている途上国の子ども(支援地域のフィリピン、インド、モンゴル)の権利が守られ教育を受けられるよう支援します。

内容: フィリピン、インド、モンゴルの貧困地域の子どもへの自立支援を実施。

<フィリピン支援事業>

FTCJでは、3つのフィリピンのパートナー団体を通じて支援事業を実施しました。パートナー団体は次の通り

1. プレダ基金(PREDA Foundation Inc.)

プレダ基金はフィリピン・オロンガポ市にある NGO で性的虐待や刑務所から子どもを保護し支援するなどしています。団体名の PREDA は、Peoples Recovery Empowerment and Development Assistance の略で「人々の回復や発展の支援」という意味です。1974年アイルランド人のシェイ・カレン神父とフィリピン人のヘルモソ夫妻によって設立され「子どもや女性、貧困層の人々を守る」という使命を掲げて活動しています。貧困層の自立のためフェアトレード事業も行っています。ノーベル平和賞に過去2回ノミネートされるなど世界的に評価されています。

2. タタグ(TATAG)

TATAG は「Tayo Ang Tinig At Gabay」の略でフィリピン語で「私たち自身が声であり道標である」という意味。フィリピン・オロンガポ市を拠点に路上で働く子どもへのワークショップ(ストリートエジュケーション)やその他教育支援、ストリートエジュケーター育成、貧困地域への自立支援と幼児教育を行っています。1994年に元ストリートチルドレンの経験を持つアバイガル氏によって設立。子どもの力を引き出し、子ども自身が声をあげられる社会を目指し活動しています。

事業名	事業内容	実施日時	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
プレダ基金支援	プレダ基金で保護されている子ども(少女・少年あわせ約120人)への教育、職業訓練、栄養強化、自立支援を実施。また、プレダ基金が販売するフェアトレード商品を購入し貧困層の自立支援に取組ました。	通年	保護された少年・少女150人	600
タタグ支援	手紙を通じて交流しながら働く子どもを支援する制度「文通プロジェクト」を設置・運営した。それら集った資金は、働く子どもへの教育支援、ストリートエジュケーター養成、働く子どもへの栄養強化プログラムの実施事業費のために使われました。	通年	路上で働く子ども、貧困層の子ども約100人	522

【成果・効果】

- 栄養強化プログラムの実施により、193人の貧困地域に住む路上で働く子ども(ストリートチルドレン)や、虐待を受けた子どもに対して、栄養価のある食事を提供できました。食事は、栄養学について知識のあるスタッフがメニューを考え、穀類とともに野菜とタンパク質(魚、鶏肉、豚肉、牛肉、豆類)を必ず摂取できるように工夫されました。受益者の子どもの中には、このプログラムを受ける前は、刑務所にいたり、路上で生活しているなど、栄養失調で体調も崩しがしていましたが、本プログラムの実施により、体重が増え、体力が付き健康面での改善がみられました。
- ノンフォーマル・エデュケーションやストリート・エデュケーションにより193人の子どもが子どもの権利を知ることができ、基礎教育の習得ができました。また、自分の身を守るための術を学ぶなどしました。このプログラムにより、公立学校への編入を果たしたり、学校の授業の予習、復習をして学習能力が補われるなどした子どもがいました。また、勉強に必要な教材や文房具を子どもに配布しました。
- 職業訓練の実施により、89人(性的虐待や搾取をされていた経験をもつ女の子36人、路上で働くなどしていた男の子53人)の子どもが、次の職業訓練や研修を受けることができました。
 - ・お菓子作り(クッキーやアイスクリーム作りを通してお菓子の作り方を学ぶなど)
 - ・手工芸品作り(アクセサリー、カーテン、カバンなどの作り方、ミシンの扱い方などを学ぶ)
 - ・石鹸作り(石鹸の作り方を学ぶ)
 - ・園芸や農業(野菜や果物の育て方や収穫の仕方について学んだり、ガーデニングについて知識を得る)
 - ・溶接(金属を使い家具作りや溶接についての技術を得る)
 - ・カーエンジニアリング(車の組み立てや部位について学び、車修理ができるようになる)
 - ・木工細工(木材を使った家具や工芸品を作る技術と機械の扱い方を学ぶ)

これらの職業訓練は、企業の支援や協力を得て特殊専門機械を設置することができ、実現しました。また、その機械の使用方法については、専門家に来ていただき、子どもたちが直接学ぶなどしました。女の子にはお菓子作りが人気があり、男の子にはカーエンジニアリングが人気がありました。子どもはみな真剣に訓練を受け、学んだことを活かして将来の仕事へつなげたい、という意見が多く聞かれました。

4. 子どもの声

・13歳(男): 支援を受ける前は小学校を4年生で中退し路上で車の見張り番をするなどして働いていました。あるときトラブルにあい、刑務所に入ることになりそこでは辛い毎日でしたが、今は基礎教育を受け算数の勉強が楽しいです。また、おいしい食事もうれしいです。

・12歳(女):路上で働きながら学校に通っていますが、家が貧しいためお肉が食べられません。支援プログラムで提供される食事にはいつもお肉などが入っていて楽しみです。

【写真で見る活動報告】

ストリートチルドレンへの栄養強化プログラムの様子



NGO対抗運動会に向けてはりきって練習!



刑務所から救出された少年への職業訓練



【2011年度に向けて】

2002年から現地 NGO の TATAG(タタグ)とパートナーを組んで路上で働く子どもへの教育支援と栄養強化支援を行ってきた FTCJ ですが、8年間支援事業を行い、支援当初に比べ路上で働く子どもが学校に行くことができるようになってきたため、ある一定の成果と判断し、2010年度を持ってタタグへの継続支援は終了とすることにしました。しかし、今後もタタグと連携を持っていく予定です。スタディツアーでは、今後もタタグを訪問する予定です。今まで、文通プログラムを通じて路上で働く子どもたちへのご支援にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

<インド支援事業>

1. 西ベンガル州の貧困の中におかれた子どもへの支援を実施しました。

◆**事業目的**: インドの貧困のために権利を奪われ、児童労働などの過酷な環境に置かれている子どもが、FTCJ の支援を通して貧困状態から助け出し、必要以上の空腹や苦痛を感じることなく子ども時代を送り、それぞれの環境で自立して生活できるための教育を受けられるよう支援します。

◆**パートナー団体**: Center for Communication and Development(以下 CCD)

<設立経緯・背景>

1978年に起こった洪水がきっかけとなり被害を受けた人々を支援するため代表のスワパン氏を中心となってCCDが設立された。市街地から離れた所に医療診療所(Medical clinic)を作ることから着手し、学校のない村に学校建設事業や収入向上プロジェクト(Economic welfare activities)を開始。このプロジェクトは、貧困家庭にミシンや家畜・原材料を提供し、その使用方法や飼育方法を教え、商品を作り出し、それを売ることによって生計をたて自立できるようにするもの。最後にはミシンや家畜を返してもらい、誰に頼ることもなく村で自立できるようになることを目的としたシステムである。翌年からは危険な工場で働く子どもを救出し家族のもとへ返したり保護施設に預けたりする活動を始めた。



↑CCD が運営する養護施設
「マクタニール子どもの家」

事業名	事業内容	実施日時	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
CCD マクタニール養護施設運営事業	<p>貧困のため家族と一緒に過ごせない子どもや過酷な環境で働いていた子どもを救出し、子どもたちが安心して生活できるような環境を提供するため養護施設「マクタニール子どもの家」の運営を実施。現在、2歳～15歳までの子ども24人が生活しています。</p> <p>協力体制: 現地パートナー団体 CCD</p> <p>成果: FTCJ の支援によって、施設で生活する子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らしています。また、美術や体育などの情操教育を通し、より豊かな心身の発達を育んでいます。具体的には学校に通うために必要な制服や文房具の購入、ワークショップ教材費を支援しています。</p>	通年	マクタニール擁護施設で生活する24人の子ども	158

【写真で見る活動報告】

子どもたちの大好きなヒन्दウー教の10月のお祭り 24人の児童労働など貧困から救出された男の子が暮らしています。のひとつ、デュルガ・ブジャ。



2. ラジャスタン州の貧困農村地域の子どもへの支援活動をスタート！

◆**事業目的:** インドの貧困農村地域で生活する子どもたちが、FTCJ の支援を通して子どもの権利を守られ安全で健康な子ども時代を送り、それぞれの環境で自立して生活するのに十分な教育を受けられるよう支援します。

◆**事業実施体制:** FTC ネットワークにより実施 (FTC インドとの連携協力)

◆**支援地域について**

支援事業地: ラジャスタン州ラジュサマン地区 (ウダイプールから100km の距離)

支援地背景: ラジュサマン地区の人口の75%は未開拓地に住んでいます。そのコミュニティには様々な少数民族が住んでいます。このような僻地に住んでいる先住民族の人々は長い間社会から隔離され、取り残されてきたといえます。村は深い森と高い丘に囲まれており、土地は平らではありません。村には電気やガスは通っていません。また、灌漑用水も無く土地を耕作する事が出来ないの、村人の多くはやせた土地に住んでいるため出稼ぎ労働に従事しています。

支援地識字率: ウダワッドには138以上の世帯があり、765人以上が住んでいます。本来学校に通うべき年齢の子どもが135人以上いますが、たったの92人だけが小学校に入学しています。しかも、平均の出席人数はたったの56人です。公的なサポートや介入が無いので、この地区の識字率は16%以下で、女性だけの場合は6%以下です。

事業名	事業内容	実施日時	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
インド農村地域自立支援—学校建設事業	学校設備が不足しているため、教育を受けることができない貧困農村地域の子どもが学校に通い教育を受けられるよう、学校建設を実施しました。そこで、2010年8月のスタディツアーの時には、実際に参加者が学校建設ボランティアを現地で行い、村の子どもたちが楽しそうに学校の完成を待っている姿などがありました。 成果: 2010年度を通じて、村人と自治体と協力して、小学校の建設に着手でき、2011年4月に完成予定です。教科書の配布なども併せて行いました。	通年	ウダワッド村の子ども135人	2,550

支援地課題: 地域特有の問題として、教育機関や良質な教育を与える教員の数が不足しています。保健医療も無く必要最低限な医療活動もありません。もう一つの問題は、土地の大部分が政府に所有されている事で、25%だけが村人が耕作する土地用に残されていますが、岩と穴だらけ。職不足と水不足と食不足が続いており、村人は悩まされています。

【写真で見る活動報告】 インドのスタディツアーで現地訪問時に学校建設作業を行いました。学校は、2011年4月に完成しました。

完成前の古い学校で学ぶ子ども。みな勉強大好き



<モンゴル支援事業> 図書施設運営事業

事業名	事業内容	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
移動図書館設置運営事業	<p>支援事業地:首都ウランバートル(UB)市バヤンズルフ地区 ゲルで暮らす人々が多い UB 市の東に約10KM の車市場近くにある #92学校のとなり(第8地区内)の土地。約3,000人の貧困家庭の子ども(16歳以下)が住んでいる地域で、この地区に住む16歳以下の子どもの4分の3にあたる人数です。</p> <p>事業目標: 支援事業地周辺に住む子どもが図書館に来ることで、様々な本が通じて想像力を養い、識字能力を高めることができること。ひいては、自身の夢や希望を持ち実現のために歩むことができる。</p> <p>事業内容: 「ゲル図書施設」運営をすることで、モンゴルの厳しい暑さや寒さから身を守り、勉強や交流、安らぐ場所としてゲル施設を機能させました。子どもが読書や勉強など知識を深めることができる場所とするため、図書施設の運営を実施。具体的には、本を読みに来る子どものケア、手洗いうがいの呼びかけ、文字の読み書きレッスン、日本語レッスン、音楽レッスン、算数レッスンなどを実施しました。同時に日本の支援者との文通を通じた交流を実施しました。2010年3月には、モンゴルへスタディツアーを実施し、図書館に本を読みに来ている子どもと交流するなどしました。</p> <p>協力体制: NPO 法人アジアの会 代表 高岡良助氏</p> <p>成果: (基本的には月曜～金曜まで週5日間を開館運営)2010年を通し少ない月で述べ1300人、多い月で3800人も子どもが本を読みに来ました。また、図書だけではなく、定期的に馬頭琴やピアノのレッスンも実施し、子どもが音楽を学び触れることもできました。その他、文字の読み書き、算数計算のレッスンも実施しました。スポーツ用品や図画工作の道具の設置で、絵を描いたりスポーツ用品で体を動かす子どもも多くみられました。</p>	通年	支援地域に住む2000人の子ども	304

2008年8月に建設したゲル図書施設の運営を行いました。

【写真で見る活動報告】 図書館に本を読みに来ている子どもたち。みんな本が大好き！天気の良い日は図書館の周りの敷地で遊んだりもします。

スタディーツアーでは、FTCJ 子ども図書館を訪れ、子どもたちと交流しました。



スタディーツアーでは、遊牧民のゲルにホームステイをし、乗馬をしたり、家事などを手伝いました。ヤギをひい、と抱える遊牧民の子ども！



(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業報告

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	支出額 (千円)
翻訳	事業の運営に係る資料を日・英に翻訳。	通年	—	18人	—
研修参加	円滑な組織・事務局運営のため労務、並びにJANIC主催「NGO活力UP!事業」研修へ理事、事務局員が参加し、外部アドバイザを招いて事業サポートを受けた。	4～12月	関西	6人	6.5
個人情報 管理	アクセスのデータを構築し、メンバーや協力者などの個人情報を整理し、管理を行った。	通年	東京事 務所	5人	1,474
問い合わせ 対応	eメール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問返答、メンバー希望、団体への質問返答など	通年	東京事 務所、 大阪連 絡所	5人	
会計	組織の透明な会計のための団体に関する資金の流れを管理し帳簿を付けるなどの業務を実施。	通年	東京	1人	
理事会 運営・管理	事業を円滑に実施するための理事会の運営。	通年	事務所	14人	—
その他	事務所運営管理、什器管理など。	通年	事務所	5人	1,560

メディア配信・媒体名	時 期	内 容
人権タイムス 機関紙	3回	代表理事・中島早苗による子どもの権利に係わる原稿掲載されました。
高校家庭科教科書	2010生活学 Navi	FTCJ の活動が紹介されました。
中学公民教科書	ビジュアル公民2010	子ども兵士や教育を受けられない子どもについての情報提供。
高校英語教科書	UNICORN	FTC を創設したクレイグ少年の物語がレッスントピックとして掲載されています。
高校英語教科書	English Now !	FTC を創設したクレイグ少年の物語がレッスントピックとして掲載されています。
「 Int' lecowk 」 国際経済労働研究所発行	2010.4	代表理事・中島早苗と FTCJ 団体紹介についてのインタビュー記事が掲載されました。
子どもの権利条約 No.100	2010.06.15	「子どもによる子どものための活動」が日本で10周年ー活動 最初の一步」 中島早苗の10年間の活動について紹介されました。
読売新聞「顔」	2010.07.10	「ガールズ20サミット」で日本代表を務めた FTCJ のユースメンバーの瀬川愛葵(せがわあいき)が紹介されました。
信濃毎日新聞「松本タウン情報」	2010.07.27	「劣悪な児童労働を知ろう」 児童労働の生活実態を学び、疑似体験をするワークショップに関する記事が紹介されました。
『連合』8月号	2010.07.30	FTCJ が参加した児童労働反対世界デーが紹介されました。
外務本省	2010.10.13	福山哲郎外務副大臣を訪問、全国から集められた児童労働に反対する署名を提出したことが掲載されました。
「Let's start!」ユース国際ボランティアフォーラム冊子	2010.12.26	FTCJ のフィリピン自立支援事業の情報提供をしました。
朝日新聞朝刊	2010.4.21	途上国の支援に加わる高校生が先生となり、岡田克也外相ら国会議員向けに授業を行う「世界一大きな授業」が取り上げられました。
朝日新聞 Web 版	2010.4.21	同上
「国際開発ジャーナル」(通巻651号)	2011.02.01	「NGO ここに注目！」FTCJ の活動について紹介されました。
J-WAVE 「 JK RADIO TOKYO UNITED」	2011.02.04	「KONICA MINOLTA COME TOGETHER」というコーナーで、チョコプロのリーダー星野響子が生出演しました。
「モルゲン」株式会社遊行者発行 No.112	2011.02.07	「Kids can! チョコレートプロジェクトでインドの子どもたちにちょこっと愛を」の活動が紹介されました
日本経済新聞(夕刊)	2011.02.12	FTCJ の活動が紹介されました。
「クロワッサン」株式会社マガジンハウス発行	2011.02.25	「あなたに伝えたい チョコで自立支援ができます。ご協力、お願いします！」 Choco pro の活動が紹介されました。
中外日報	2011.02.26	全日本仏教青年会と協力して行ったイベント「TERRA へ祈る」が告知されました。
週刊仏教タイムス	2011.03.10	全日本仏教青年会と協力して行ったイベント「TERRA へ祈る」について掲載されました。

【メディア掲載一覧】 2010年度にメディアで配信された FTCJ の活動やメンバーやスタッフの寄稿による団体紹介です。